

伊豆半島東方沖の地震活動

2009年12月17日午後から始まった伊豆半島東方沖の地震活動は、夕方からは活発になり、震源が徐々に浅くなっていった。23時45分のM5.0の地震以降は上昇が止まり、20日以降は、急速に活動が低下した。この群発地震活動が始まった17日未明から、伊東市新井にあるボアホール型傾斜計やひずみ計でも変動が観測されていた。

この地域では1978年以降たびたび群発地震活動が発生していたが、その活動領域は少しずつずれた場所であった。1998年の活動以降、比較的規模の小さな活動が続いていたが、今回の活動は、2000年代に発生していた群発地震活動に比べて浅いところで起きている。この深さは、1990年代の活動と同じような深さで、特に1993年5月の活動域と領域も似ている。

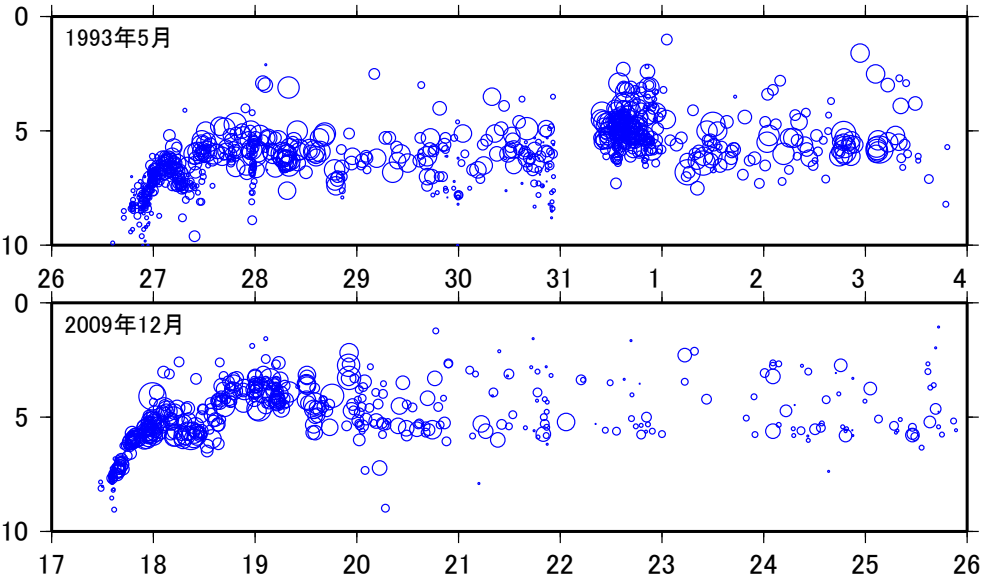


図1 1993年の活動と今回の活動との深さ変化

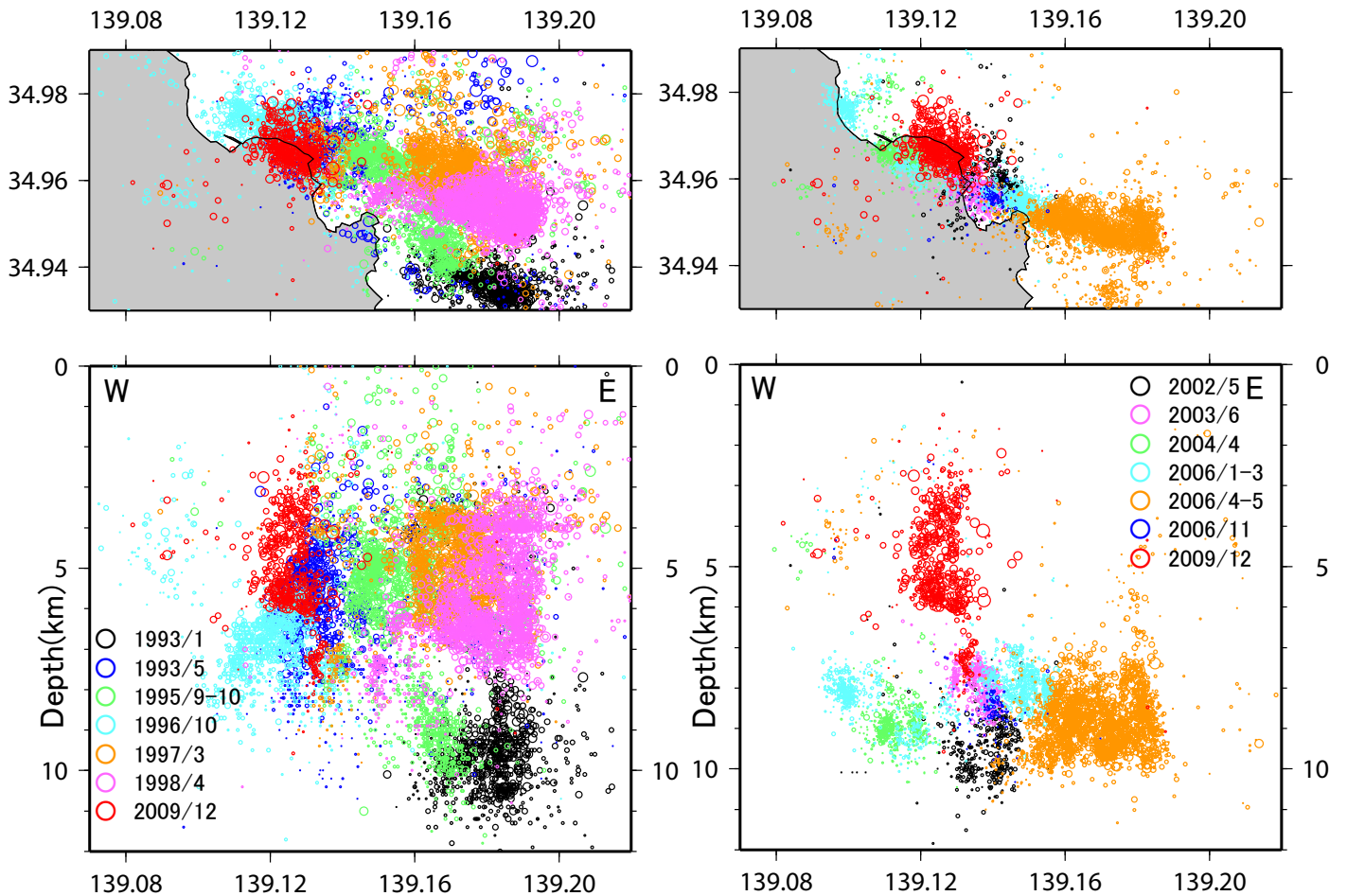


図2 1990年代の地震活動と今回の活動

図3 2000年代の地震活動と今回の活動